



原爆ドームを背に撮影

特集

中学生を広島平和記念式典へ派遣

平和への誓い

市では、8月6日に行われた広島市平和記念式典に市内の中学生8人を派遣しました。これは、市制施行10周年記念事業として、村上市の将来を担う若い人たちに戦争の悲惨さや平和の尊さを考えてもらうことを目的に行われたものです。

現地で平和の尊さを実感

8月5日に広島市に到着した中学生8人は、最初に原爆ドームと平和記念公園を訪問。原爆ドームでは、間近に見えるむき出しの鉄骨、大きなコンクリートの塊が原爆のすさまじさを物語っていました。その後「原爆の子の像」に、市内全中学校の生徒が平和を願って折った千羽鶴を奉納し、亡くなられた方のご冥福を祈りました。

翌6日には、平和記念式典に参加しました。式典には世界80か国以上の代表を含むおよそ5万人が参列。原爆が投下された午前8時15分、平和の鐘が静かに響く中、黙とうを捧

げました。続いて「平和宣言」、子ども代表による「平和への誓い」が行われ、恒久平和への思いを強く感じた式典となりました。

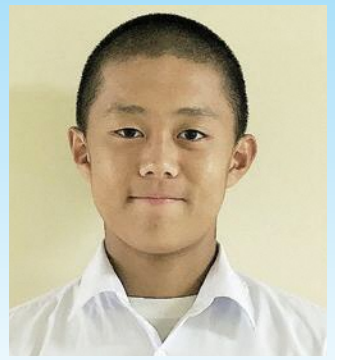
式典終了後に訪れた平和記念資料館では、被爆者の遺品や写真を見学。人々の命を奪う戦争は絶対あってはならないこと、平和の尊さを実感しました。

次ページでは、今回参加した8人の感想文から一部抜粋、要約した上、紹介します。

●問い合わせ

学校教育課学校施設係

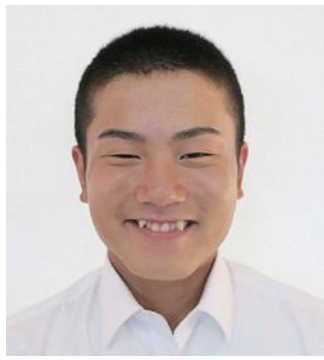
☎ 72・6882



江見 晃太郎さん
(村上第一中学校 3年)

原爆の恐ろしさ

原爆の恐ろしさを自分の目で見る
ことができて、とてもいい経験とな
りました。多くの人に広島を訪れて
いただき、原爆について考えてほし
いと思います。広島で学んだこと
をさまざまな人に伝えていきます。



小田 駿汰郎さん
(村上東中学校 3年)

世界中で平和を願っている

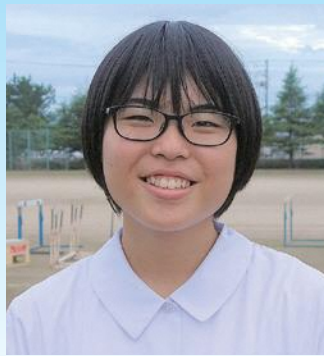
平和記念式典に驚くほど多くの外
国人が参列しており、世界の人た
ちが平和を願っていることを知りま
した。恒久平和への願いと意識が高
まり、この広島で学んだことを後世
に伝えていきたいと思えます。



佐藤 志保さん
(岩船中学校 3年)

今の時代に感謝

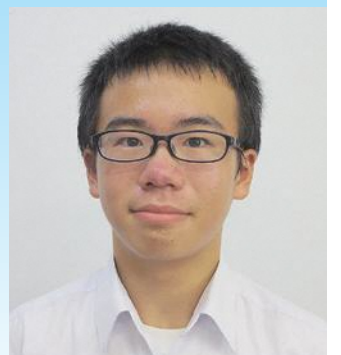
原爆がいかに悲惨で恐ろしいもの
かよくわかりました。たくさんの方
の命を奪った戦争は二度としてはい
けないと強く思います。この平和な
時代に生きていられることに、感謝
しなければなりません。



川村 千華さん
(荒川中学校 3年)

世界平和を願う

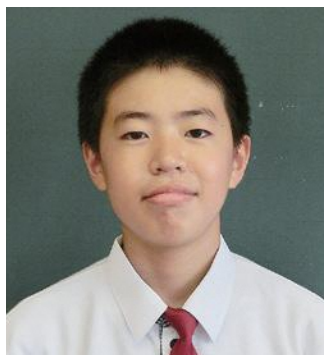
この世界から戦争や紛争がなくな
り、平和になることを願っています。
今回の貴重な体験を家族や友人に伝
え、周りの人にも平和についての考
えを深めてもらおうと思えます。



遠山 拓郎さん
(平林中学校 3年)

生きることのありがたさ

被爆者の方の話を聞き、原爆がも
たらした被害の様子を知ったことで、
「生きる」ことのありがたさ、命の
大切さを学びました。学校みんな
に戦争や原爆の恐ろしさを伝えたい
と思えます。



磯部 拓也さん
(神納中学校 3年)

命を大切に生きる

当時の子どもたちの夢や希望、命
を原爆が奪っていったことを考える
と、同世代として胸がしめつけられ
る思いでした。生きてくても生きら
れなかった被爆者の分まで、命を大
切にして生きていきたいです。



菅原 優さん
(朝日中学校 3年)

この被爆がなかったら

これからの社会を築っていく自分
たちの世代が、この被爆や敗戦と、今
の日本の平和との関係について考える
べきだと思いました。そうすれば戦争
のつらさと平和のありがたさに気づけ
ると思えます。



柳瀬 翔太さん
(山北中学校 3年)

学んだことを次世代へ

被災された方の服や遺品を見て、と
ても心が痛みました。今の平和な生活
ができていることを当たり前と思わず
生きていこうと思えます。広島で学ん
だことは、大人になった時に子どもた
ちに伝えていきたいと思えます。